

---

【テーマ1】 日常生活における移動と交通のあり方  
：地域課題を乗り越える持続可能なサービスへ

---

**移動の足が抱える課題：自家用車依存と公共交通の不便さ**

私たちの日常生活を支える地域の交通網は、今、大きな転換期を迎えています。特に地方では、**自家用車への過度な依存と、公共交通機関の利便性の低さ**が深刻な課題となっています。バスの本数不足や運行情報の分りにくさは、住民、特に免許返納後の高齢者の移動を困難にし、病院やスーパーといった生活必需施設へのアクセスが難しくなってきます。



これらの問題は、事業者の採算性悪化、深刻な**ドライバー不足**を招き、結果として交通空白地帯の増加を進行させていきます。誰もが安心して移動できる社会を築くには、現状を打破する新たなアプローチが不可欠です。

**対応と実証の検討：デジタル技術で移動を「見える化」し、地域に合わせたサービス**  
こうした課題を解決するため、いくつかの革新的なアイデアが提唱されています。

- **デマンドバス/フリーアクセスバスの導入**: 利用者の時間的・空間的なニーズに合わせて運行する柔軟な交通サービス。
- **運行状況のリアルタイム可視化**: バスがリアルタイムでどこにいるのか、あと何分で到着するのかがわかることで、利用者の不安を解消。
- **スマートフォンアプリの活用**: 予約から情報提供までを一元化し、利便性を大幅に向上、また、スマホを苦手とする高齢者向けには GPS トラッキング機能付きの会員証を配布することで性年代を問わず幅広い利用者の情報・顧客ニーズを取得。

さらに、災害時にも途絶しないで機能する**強靱な通信インフラの整備**も、安全・安心な移動を支える上で欠かせません。

しかし、これらのアイデアを実現するには、乗り越えるべきハードルも少なくありません。



**山間部などでの通信技術的限界、既存タクシー会社との競合、財源確保、住民のデジタルリテラシー向上、正確な移動データ収集、そして依然として深刻なドライバー確保**といった課題が挙げられます。

これらの課題を踏まえ、ワークショップでは、**ライドシェアとデマンドタクシーの運行実証**を行う案が検討されました。GPS ロガーやアプリを活用して利

用者の移動実態データを詳細に分析し、地域住民に真に寄り添った持続可能な交通サービスの構築を目指そうとディスカッションが深まっています。

## 【テーマ2】災害時における交通途絶リスクと事前の対策のあり方

：ドローンとAIが拓く新たな防災の形

### 災害時の「孤立」を招く課題：物資・情報伝達の遅延と混乱

地震や豪雨など大規模災害が発生した際、最も深刻な問題の一つが交通途絶による孤立です。道路寸断は、緊急物資や医療支援の到着を大幅に遅らせ、被災地の状況を悪化させます。また、避難所では避難者の情報が不足し、支援のニーズを正確に把握できないという課題も浮上します。さらに、道路状況に関する情報が錯綜し、

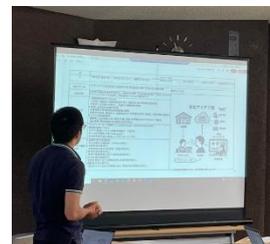


効率的な情報収集が困難になることも、迅速な初動対応を妨げる要因となっています。

### 対応と実証の検討：テクノロジーで備える、自動化された支援体制

これらの喫緊の課題に対し、最新のテクノロジーを活用した画期的な解決策が検討されています。

- **常時ドローン輸送インフラの構築**: 平常時から物流にドローンを積極的に活用することで、災害時には重い物資を大量に、かつ迅速に運搬できる体制を確立します。将来的には自動運転による配送も視野に入れる。
- **避難所情報収集の自動化**: マイナンバーカードや顔認証システムを導入することで、避難者の基本情報や医療ニーズを自動で把握し、医療機関や生活支援団体との連携を強化する。
- **道路状況の自動センシング**: タクシーやバスなどの公共交通機関にGPS、カメラ、振動センサーを搭載し、通行不能箇所や道路の損傷状況（例：ポッドホールや段差など）をリアルタイムで自動検知・解析する。AIによる分析を活用し、電池やエネルギーハーベスト技術を導入することで、様々な設置環境へ低コストでの運用を目指す。



これらの取り組みにより、災害発生時の迅速な情報共有と、物資・医療支援体制の構築が目指されています。しかし、これらの先進的な取り組みを実現するには、クリアすべき課題も存在します。プライバシー保護、ドローン規制緩和、そして大量データ管理のコスト



と精度といった点が挙げられます。特に、道路センシングとマイナンバー連携による避難情報管理の実証がディスカッションされており、これらの課題解決に向けた具体的な検証について検討されています。デジタルの力を最大限に活用し、災害に対応していく社会を築くための挑戦が始まろうとしています。

### 【テーマ3】観光視点での移動と交通のあり方

：観光地をスムーズに巡る観光客と地域住民に優しい交通のあり方

#### 観光地の交通が抱える課題：複雑さと利便性の低さ

魅力的な観光地が抱える交通の現状は、観光客と地域住民双方にとって課題となっています。特に冬期におけるバス運行体系の複雑さや、複数の事業者による複雑な料金体系は、観光客の利便性を著しく損ねていると考えられます。



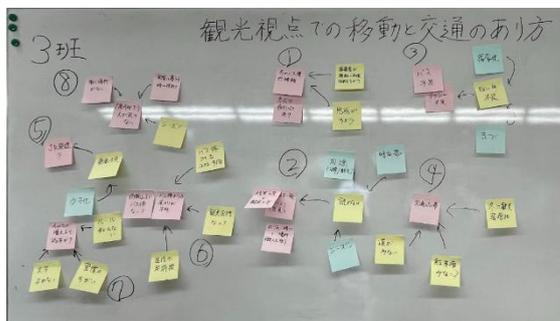
また、観光客と地元住民の移動ニーズが必ずしも一致しないこと、バス停の不足や、目的地へのアクセス方法が分かりにくいといった声も多く聞かれます。観光客は特に、タクシーと比較してバスの経路が遠回りや、時間がかかることに不満があったりするため、実態を把握できるような仕組み作りから始めることがとても重要です。

#### 対応と実証の検討：AIとシェアリングで観光移動を最適化

こうした課題を解決するため、多様なアイデアが提案されています。

- **AIを活用したアプリの導入:** 観光客の目的地や時間帯に合わせて最適な移動ルートを提供し、公共交通機関の利用を促進。
- **人流分析:** 観光客の動きをデータとして把握・分析し、混雑緩和や効率的なバス運行に役立てる。
- **ライドシェア:** 地域住民の自家用車等を有効活用し、柔軟な移動手段を提供。
- **車内での情報可視化:** バス車内で多言語対応の観光情報や乗り換え案内を提供し、観光客の不安を解消。
- **観光マップの整備と新しいバス停の設置:** 観光客視点での利便性を重視し、目的地と乗降場所が分かりやすい案内体制などを整備し、アクセス性を改善。

これらの取り組みを通じて、観光客がより快適に、スムーズに観光地を巡れるよう、そして地域住民の利便性も向上することを目指しています。



観光地が抱える交通課題は多岐にわたりますが、テクノロジーと柔軟な発想を組み合わせることで、誰もが快適に移動できる持続可能な観光交通の未来を築くことができます。